

1991. 10



# はてしなく

No. 26

大阪工業大学図書館報

## 情報化社会

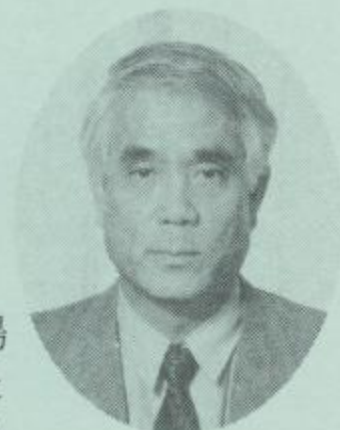
世の中で「情報化社会」・「情報化時代」という言葉が市民権を得てから久しい。しかし、ここでいう情報化とは、人々が判断を下す場合に準拠する情報の単なる地域空間的広がりや、相関をもつ分野の階層の広がり指すに過ぎない場合が多い。確かに現代はどの分野で仕事をするにしろ、多様で膨大な情報にとり巻かれ、それぞれの個人が日常的にそれなりに情報処理の技術の駆使を余技なくされているのが現状であろう。この現在の時代の状況は、そして「情報化」とは我々に新たなる思考の形態を要求し、またそうでなければ対処しきれない問題を課していると考えべきなのであろうか。

「十年ひと昔」というから三昔から四昔ほどの前の時代、即ち私の中学生から高校生の時代、極端で過激な言い方をお許しいただくなら、私にとってそして恐らく大方の同世代の人々にとっても、時代は今よりも遙かに透明で明晰であった。そこでは、テレビなどという人間の視覚を上滑りし、多大の情報をあたえるかの如き錯覚において時間を空費させる代物は普及しておらず、多少なりとも知的な楽しみに耽けるとすれば書物を読むより他はなかった。「三太郎の日記」—著者については私より上の世代の方には自明だし、若い人には意味がないであろう—などという書物を友人より数年早く読了していることが、優越感を満足させるささやかな楽しみであった。

一体、人間は「言語によって思考するもの（ジャン・P・サルトル）」であろうが、また「パターン」や「図形」によっても思考することが可能であるか。優れた都市的・建築的空間が「それらの空間はそれ自体時間をも凝縮する

建築学科教授・工学博士  
短期大学部 学長

竹内吉弘



（ガストン・バシュラール）」場合、図形表現は思考のツールとしての大きな可能性を示唆するが、マンガ本の如く概念を粗雑なイメージによって表現することに慣れることは、単なる言語の放擲ではないか。現在、我々は多様で膨大な情報に取り巻かれ過ぎているため、その処理技術に目を奪われるあまりに言語を軽視しているのではないか。時代がらみで「焚書」の罪をおかし、いずれソドムの市の天罰を受けるのではないか。

「言語」と「パターン」もしくは「図形」の問題は、人間の持つ2つの側面—科学技術と芸術—の問題にも現れている。即ち、この両者に思考のツールとして決定的な差があり、これが現代において「あまりにも科学技術の発達が発達した芸術のそれに先行しすぎた結果となっている（レービス・マンフォード）」という指摘である。このため、いずれ現代は破滅的状况に立ち至るがこれを阻止するため「科学技術の発達を停止せよ（レービス・マンフォード）」とする提言は、必ずしも荒唐無稽のものとは思えない。唯、芸術の立ち遅れの理由が人間世代の交番において、両者の思考ツールによって構築される「情報」の継続性・積み重ねの可能性の差であるなら、それこそここにアナログ量とデジタル量の壁を超えた「コンピュータ」の情報処理能力が利用可能であるとも思えるのだが。

ともかく、本学の学生諸君。「書を捨てずに街にも出よう」ではないか。そしてまた、出来る限り図書館に籠り万巻の書を読破しようではないか。



## メディアとしての図書館

大学院工学研究科 経営工学専攻

鳥居弘道



「あなたの好きな本は何ですか？」と質問されると私は迷わず「事典」と答えるだろう。それは現在私が図書館を利用しているスタイルとの共通点にある。必要なときだけ必要なものを探す。その結果、なんらかの答え（又はヒント）を確実に返してくれる点にある。

調べたい言葉があっても、テレビや新聞では調べることができない。すなわち「事典」には、放送等とは異種のメディアとしての役割があるのである。このことは、「図書館」がメディアの一つである、という意味も含むのだが、現実にはメディアとして認識をもつ人は少ない。なぜだろうか？

情報化社会と呼ばれる現在、我々の要求も様々である。例えば、いま述べた知らない言葉を調べることやニュース、新製品の情報や技術、飛行機の空席情報など、さらに要求は専門色を増すであろう。このような状況の中で、情報を送る側もより専門的又は個性的になるべきである。アメリカには24時間ニュースだけを流し続けるCNNという放送局がある。今、我々が求めるメディアとしての図書館には、このCNNの要素が多分に不足しているものと思われる。一つの分野に限りなく精通した専門図書館の出現は、「事典」や「CNN」に通じる便利さと

信頼感を生み、同時に、メディアとしての重要な情報発信基地としての認識を確立するものである。

この原稿の作成中に、一つのニュースが入ってきた。大阪大学に、医学、薬学等の専門図書館（生命科学図書館）がオープンするということだった。将来、50万冊の蔵書と8,000種の雑誌を有し、日本の外国雑誌センターとしても機能するそうだ。

現在の図書館において、他の図書館とのネットワークに関しては、充実が図られているが、結ばれる図書館が同種のものであれば、真の有効利用とは言い難い。今回の生命科学図書館のオープンはその点でも、従来の図書館とは、ひと味もふた味も違った、意味のあるものだと考える。

情報を求めるという目的の基では、テレビも図書館も同じである。要は、「あの図書館ならわかるかも知れない」といった利用者の声が重要なのである。日本の図書館をメディアとして認識をもつには、まだまだ時間がかかりそうだが、生命科学図書館のような興味深い試みにはこれからも注目して行きたい。



### 『史上最高の投手は誰か』

佐山和男 著  
(潮出版社)

1920年から40年代にかけて、黒人は大リーグに入る事が出来なかったため、黒人リーグというのがあった。そこにサチュル・ページ（本名リーロイ・ロバート・ページ）という伝説の投手がいた。彼の生涯登板試合数は2,500以上、その勝星は、2,000勝を上回ると言われている。

全盛時の活躍は驚異的で、その投球を見たほとんどの人たちが「かつて自分が見た中で最も素晴らしい投手」と語るほどだった。

1946年、第2次世界大戦で多くの選手を失っ

た大リーグは、黒人禁制を解いた。そして黒人初の選手として誕生したジャッキーロビンソンが新人王に輝く働きを見せると、各球団とも黒人選手獲得に積極的になった。

ページはこの時、42歳。すでに全盛を過ぎていたが、それでも大リーグから誘いが来た。大リーグ入りの新人年齢としての最高記録である。

大リーグでの通算成績は28勝31敗。年齢を考えると立派である。そして最後の登板は1965年、実に59歳の時だということから、何ともすごい話である。

まさに伝説の投手。史上最高の投手である。

(請求記号 737.7 S 第1 図書室)





シリーズ 淀川ぶらり散策

第17話

「大阪弁 その1 キツネ目の男」

浅井 三千治

淀の川面に、キツネ目の男の、低く、押し殺した笑い声が、不気味に響き渡る。

けたたましくサイレンの音を響かしながら、追走するパトカー。猛スピードで逃げる白の小型ライトバン。1984年11月14日夜、名神高速道路京都-滋賀県栗東間30キロでは、大取り物劇が繰り広げられていた。



翌日の新聞は、「警官が照らした懐中電灯の中に浮かび上がった『かい人21面相』は、その直後、やみの中に消えた。」と、報じている。警察庁広域重要指定114号、グリコ・森永事件の1コマである。

1984年3月18日、「江崎グリコ」社長宅に短銃を持って押し入り、入浴中の同社長を裸のまま拉致した上、現金10億円と金塊百キロを要求するという、これまでの日本の犯罪史上例を見ない、大胆で荒々しい手口の誘拐劇に端を発したこの事件は、当初遺留品や目撃者が多く、犯人の早期逮捕が期待された。

しかし、事件はその後意外な展開を見せた。追いつめられていた筈の犯人達が、さらに標的を拡げ、森永等の食品メーカーを相手に、現金の要求や現金奪取を図ったのである。そして犯人達は、「毒入りチョコおいたったで!」、「グリコを、たべて、はか場え、いこう」等の脅迫状を企業に送りつけ、ゆする一方で、「わるでもええ、かい人21面相の、ように、なつて、くれたら」等の挑戦状を、次々にマスコミ機関に送り続けた。このように、大胆かつ荒唐無稽な怪事件を次々に引き起こす犯人達の姿は、あたかも江戸川乱歩描くところの、怪人20面相の世界そのものであった。

毒入りチョコをスーパーの店頭に着く等、凶

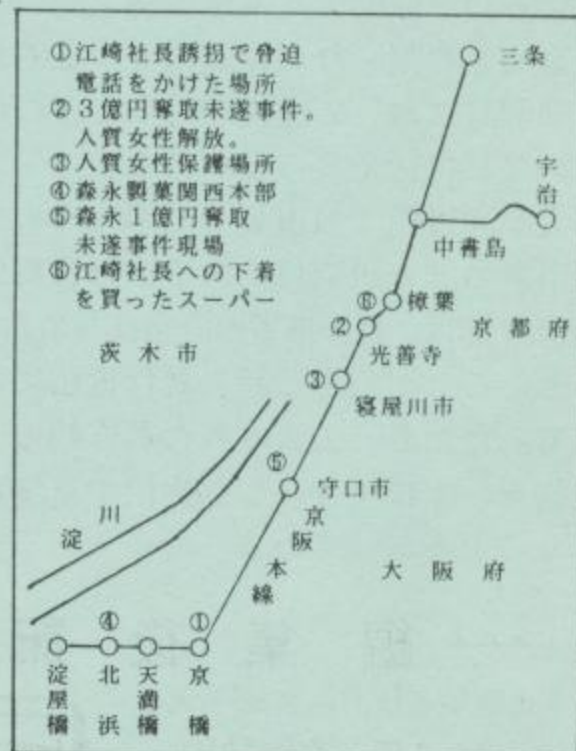
悪犯罪を重ねる犯人であったが、大胆でカラッとしていて、次には何をしでかすのかと興味を抱かす手口が、一般大衆には受けた。また公表された犯人の挑戦状は、警察を揶揄する内容が主体で、さらに大阪弁を用いて書かれていたこともあってか、ユーモラスな響きがあった。標準語を使った文体の挑戦状であったなら、犯人のイメージも、もう少し違ったものであったかも知れない。

この大阪弁、他所の人からみると、こてこてして、もっちゃりとした喧嘩腰の言葉に聞こえるそうだ。今東光の「悪名」の頃からであろうか、河内弁を主体とした、いわゆるガラの悪い言葉が、大阪弁の代表のように思われるようになったのは。そして、吉本の芸人達の東京を意識した、お笑いを誘うために加工された、どぎつい表現の「芸能語」としての言葉が、一層大阪弁のイメージを歪めてしまった。

昔から大阪の町中に住む人達は、「あんなん、大阪弁やおまへん。大阪弁は、もっとしっとりした上品な言葉です。」と言う。谷崎の「細雪」に出てくる、「いとはん」、「こいさん」の優雅な世界である。今回は、この辺りのことについて書いてみることにしよう。

ところで、国語学者によると「犯人の用いている大阪弁は、北河内方面で用いられている言い方に近い」

そうだ。また図のように、この事件の舞台として、北摂、北河内の淀川右岸、左岸が頻りに登場し、犯人達がこの地域の地理に明かるいことを、伺わせる。



果たして、キツネ目の男は、この地域の出身者なのだろうか？

第17話「大阪弁 その1 キツネ目の男」完



## 図書館活用の手引き②③

### 著作権

図書館における複写サービスと



AV資料の貸出禁止

AV資料の貸出禁止

機械技術の急速な進歩に伴い、極めて安易にコピーが可能となった今日、著作物の新しい利用をめぐって著作権上のトラブルが各方面において多発している。

昨今の新聞紙上でも、A社が発行、出版している試験問題集をB社が許諾なしにその相当部分を引用し、発行、出版したことにかかる著作権侵害の謝罪広告。また、最近急増している長距離バスや、観光バスの車内での映画のビデオ放映サービスについて、業務用以外のソフトを利用するのは著作権法に違反する行為であるなど、著作権に関する記事が多く見受けられる。

ところで、著作権という言葉は一般に知られているとはいえ、利用者は、まだまだ不正確な知識のまま、日常よく出版物を違法コピーしているのではないだろうか。

#### —— 図書館における複写サービス ——

著作物の複製を行う場合には著作者の許諾を要するのが原則であるが、個人的に、あるいは家庭内等の限られた範囲内での私的利用や、教育機関等において複製を行うときには、複製が許諾なしに行えることがある。

大学図書館での複製もその一つにあげられ、利用者の調査研究目的あるいは資料保存目的の場合などは、著作権者の許諾なしに自由にコピーをとることができる旨、著作権法に定められている。ただし、公表された著作物の一部分の複製物を1人につき、1部提供する場合に限りできることとなっている。

#### ++++ 編集後記 +++++

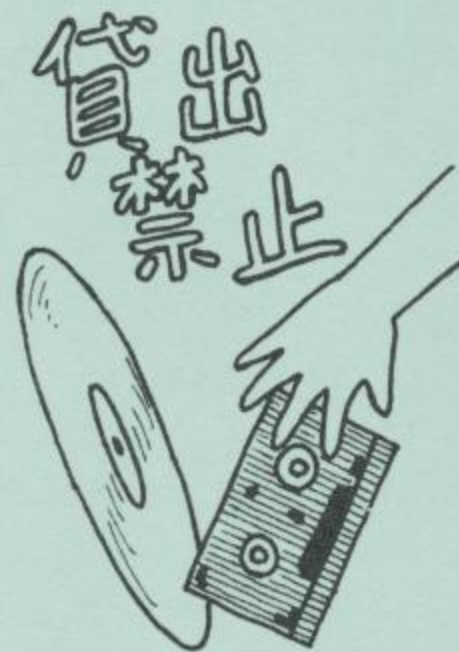
◇「馬肥ゆる秋」、スポーツに読書に。さて、諸君は何にチャレンジされるのかな？  
◇今、ウォーリーが大人気！諸君は何をさがすか？図書館は「知識・情報の宝庫」だぞ。



図書以外のニューメディアによる情報収集が普及してきた今日の情報化社会に対応すべく、昨年10月に図書館AV室をオープンして1年目を迎えた。

以来、利用者も増え、図書館では利用者のニーズに対応すべく新たに機器を増設するとともに、資料の充実に努めている。

一方、利用者からは、ビデオ、LD等、AV資料の貸出希望の声も出てきている。



しかしながら、現行では、ビデオソフトなどの映像ソフトは、書籍類とは異なり、著作権者の許諾の関係、また、図書館が無料で貸与することによる映像ソフト産業に与える影響等から貸与することは禁じられている。

著作権法に基づいて貸与のできる機関は、一部の公立の視聴覚教育施設などに限られ、それ以外の機関は、大学や高校の図書館はもちろんのこと、たとえ公的機関といえども著作権者の許諾なしに映像ソフトを貸与することはできないことになっているので、理解をお願いするところである。

大阪工業大学図書館報

No.26 (1991.10)

編集発行 大阪工業大学図書館

〒535 大阪市旭区大宮5丁目16番1号  
TEL 06-952-3131